

国際平和スピーチコンテスト



6月29日(木)に『よこはま子ども国際平和スピーチコンテスト 泉区審査会』が行われました。上飯田小学校からは、学校代表として6年1名が出場しました。とても堂々と立派にスピーチをすることができました。

世界を変える一人ひとりの努力

上飯田小学校 代表

みなさんは「食品ロス」という言葉を聞いたことはありますか。「食品ロス」とは、賞味期限切れや食べ残しなどで、食べられるのに捨てられている食べ物のことです。私は給食委員会の一員として給食室の片付けを手伝っています。手伝いをしていると、毎日のように残されたたくさんの給食が目にとまります。これが、まさに「食品ロス」です。私はその給食を見るたびに残念だな、悲しいなと胸が痛みます。私は、こんな食品ロスがなくなれば、もっと世界が豊かになるのでは、そう思います。

みなさんは「食事ができるのは当たり前」そう思っていないですか。しかし、世界には七人に一人の子供が必要な量の食事ができていないという現状があるそうです。私はその現状を知り、ますます残された給食が残念になってきました。この現状をどうにか変えていきたい。私はそう考えました。

では、私たちには何ができるのでしょうか。まず私は、私が通う上飯田小学校の現状を知ろうと考えました。そこで、私の小学校ではどのくらいの食品ロスが出ているのかを栄養士の方に聞いてみました。すると、一日に約5.9kgもの残り物が出ていることが分かりました。こんなにも多くの食品ロスが出ているのかと、驚きました。さらに驚いたのは、この量は、数ある小学校の中では少ない方だということでした。もっと多い学校では、まるまる一クラス分の食品ロスが出ているそうです。

世界には私たちが残したお米一粒も食べられない人がいるとのこと。それを考えると「いつもの給食」「いつもの食事」のありがたさに気づくことができると思います。その上で「好き嫌いせずに食べてみる」「食べられる量を盛るようにする」そういった小さな取り組みを積み重ねていくことが大切だと私は思いました。

一人ひとりの少しの食べ残しが山のような量の食品ロスにつながります。でも、それと同じように、一人ひとりの取り組みや努力で、世界は変わる、私はそう思います。私は給食委員長として、全校のみんなが給食のありがたみを感じられるように、どんどん発信していきます。そして、私自身も食べられる量を取り、食べ残しゼロにしていきます。世界を変えたい。一人ひとりの努力で。